

## 年間第15主日

第一朗読 アモス 7・12 - 15

第二朗読 エフェソ 1・3 - 14

福音朗読 マルコ 6・7 - 13

2021.7.11 高円寺教会

ジョン・ジュン神父（クラレチアン宣教会）

今日の第一朗読に登場する二人の人物を見てみましょう。それはアマツヤとアモスです。

アマツヤはベテルの祭司で、成功した人であり、地位も権力も持っていました。王様の友人でもありましたから、何でも手に入りましたが、ある意味で彼には自由がありませんでした。王様から気に入られなければ、全てを失います。ですから、いつも王様を褒め、王様の欠点や社会に対する不平等はいっさい言わず、無視していました。

一方、アモスはユダの荒野に接するテコアの羊飼いであり、いちじく桑の栽培をしていました。お金持ちではありませんでしたが、彼は自由でした。そんなアモスに主は語られたのです。「行って、わが民イスラエルに預言せよ」と。彼は自由であり、何でも話すことが出来ました。

では、今日のマルコの福音を見てみましょう。

イエス様が12人を呼び寄せ、二人ずつ組にして遣わすことにします。その際、汚れた霊に対する権能を授け、杖一本のほか何も持たず、ただ履物は履くように言います。パンも、袋も、お金も持たず、「下着は2枚着てはならない」と命じます。「どこでも、ある家に入ったら、そこから旅立つときまでとどまり、もしあなたがたを受け入れず、耳を傾けようとしないなら、そこを出るとき、彼らへの証として足の裏の塵を払い落とさない」と。

「二人」というのはコミュニティです。二人のほうがお互いに助け合うことが出来ます。

「弟子たちを派遣する」ことは、当時新しいことでした。昔の旧約の時、だいたい弟子たちはラビの先生を探して勉強しに来ていました。弟子に対する信頼、また弟子たちもイエスの持つ宝物を見つけていなければ、出来ません。

「悪霊を追い出す」とは、暴力、不公平、邪悪な力を追い出すということです。

そして、「杖」は神様の権力、平和の使者の印、信仰そのものです。何も持たず、パンも、袋も、金も持たず、金持ちに束縛されてはいけません。例えば、第一朗読のベテルの司祭アマツヤは、自分の王様から報酬をもらえる時、自分の自由は失われました。多分、今もお金と権力は福音を伝えるのに障害となると思います。もし今の時代、司祭と司教がお金のことばかり考えれば、それは、大変ですね。

ある家に入ったら、その土地から旅立つ時まで、イエスは弟子に質素な生活を要求します。特に、貧乏さを厭わず、富を愛するな、と。

「足の裏の埃を払い落とさない」とは、悪の影響を避け、拒絶や軽視はしないということです。もちろん、違う人と彼らの願望を尊重しなければなりません。本当の弟子は他人の自由を干渉しません。

皆さん、今日のテーマは一つだけです。自由な人になりましょう。わたしたちも自由な人となって、福音を伝えましょう。自由さはわたしたちを魅力ある人間にします。人々に出会うとき、勇気を持って福音を伝えましょう。そして分かち合ひましょう。